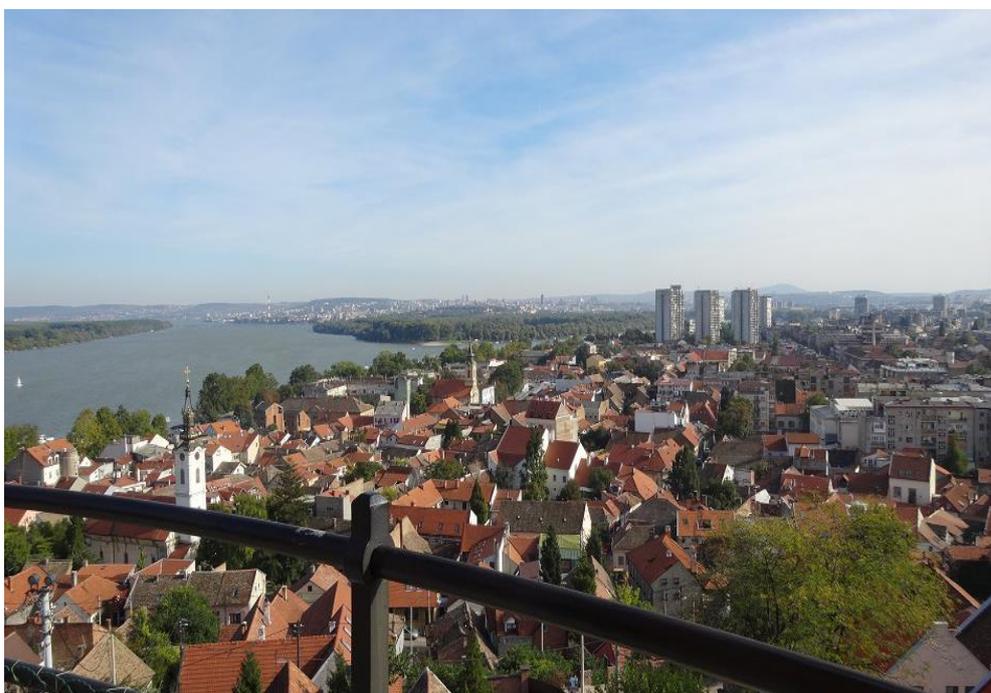


# 留 学 報 告 書

記入日: 2014年10月2日

所属学部／研究科・学科／専攻	教養デザイン研究科
留学先国	セルビア共和国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ベオグラード大学 現地言語: Универзитет у Београду
留学期間	2013年10月～2014年7月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	Филолошки факултет/Filološki fakultet (文学部)
帰国年月日	2014年9月4日
明治大学卒業予定年	2016年3月



留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:10月上旬~1月上旬 2学期:3月上旬~6月中旬
学生数	すべての学部の総学生数は不明
創立年	1808年

留学費用項目	現地通貨 (セルビアディナール)	円	備考
授業料	0	0円	
宿舍費	31,000RSD	36,200円	最後の2ヶ月以外は無料
食費	300,000RSD	396,000円	およその値
図書費	300,000RSD	396,000円	
学用品費	5,000RSD	6,000円	
教養娯楽費	150,000RSD	225,000円	CDや博物館の入場料など
被服費	40,000RSD	48,000円	
医療費	20,000RSD	24,000円	
保険費		162,700円	形態:海外旅行保険
渡航旅費		155,340円	
雑費	300,000RSD	360,000円	滞在中の旅行でかかったお金など
その他	13,200RSD	15,840円	BUSPLUS(バス定期券)代
その他	230,000RSD	276,000円	書籍などの送料
その他		円	
合計	1389200RSD +¥318040	2,101,080円	

### 渡航関連

渡航経路:飛行機、往復ともアブダビ経由

渡航費用

チケットの種類	片道航空券
往路	¥90,340
復路	¥65,000
合計	¥155,340

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

往路航空券の購入はH.I.Sを利用。復路航空券の購入はエティハド航空のサイトを利用。

### 滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍など)

学生寮

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数1人)

3)住居を探した方法:

大学からの紹介

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

学生寮「リファト・ブルジェヴィチ」は郊外のズヴェズダラにあり、大学から28番のトロリーバスで終点まで乗って行く。所要時間約25分。風呂と台所がついている部屋とそうでない部屋があるが、滞在したのは風呂と台所のある部屋だった。

## 現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか？ 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか？

利用する機会が無かった

利用した: 耳の治療

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

特に問題がなかったため、何も利用しなかった。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？ その際どのように対処しましたか？

インターネット経由で危険地域情報を収集した。スリ対策の財布を利用した。犯罪に巻き込まれたことはなかった。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮のインターネット接続は時間によってはあまりよくなかった。WIFI 接続は多くのカフェや一部のレストランで可能。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか？ (例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

国際キャッシュカードと VISA デビットカードを利用。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

特になし。

## 進路について

1) 進路

就職

進学

未定

その他:

2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

特になし。

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。

(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

未定。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。

7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

### 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	<b>本学で認定された単位数合計</b> ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
0 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません (理由: 聴講として受講したため)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Акцентологија (Akcentologijs)	(セルビア語)アクセント論
科目設置学部・研究科	Филолошки факултет/Filološki fakultet
履修期間	1学期
単位数	
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Јелица Јокановић-Михајлов (Jelica Jokanović-Mihajlov)
授業内容	セルビア語のアクセント論の入門。授業は次の本の内容の一部に沿っている。 Јокановић-Михајлов, Јелица: "Прозодија и говорна култура", Друштво за српски језик и књижевност Србије, Београд, 2012.
試験・課題など	
感想を自由記入	板書はないが、授業内容は上述の書籍を読めばわかるのでそれほど難しくはない。日本語でセルビア語・クロアチア語のアクセントについて書かれたもの、例えば三谷恵子『クロアチア語ハンドブック』, 大学書林, 東京, 1997を読んでおくとよい。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Дијалектологија (Dijalektologija)	(セルビア語)方言論
科目設置学部・研究科	Филолошки факултет
履修期間	2 学期
単位数	
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Михаило Шћепановић (Mihailo Šćepanović)
授業内容	セルビア語の各方言の特徴についての授業である。授業は次の本の内容に準拠している。Ивић, Павле: "Дијалектологија српскохрватског језика - увод и штокавско наречје", Издавачка књижарница Зорана Стојановића, Сремски Карловци / Нови Сад, 2001.
試験・課題など	
感想を自由記入	この授業も板書がないため、上記の書籍を入手して授業に臨むのがいいと思われる。担当教授はモンテネグロ出身なので、ベオグラード方言だけに慣れた人には講義内容を聞き取りづらいかもかもしれない。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Српска књижевност XX века (Srpska književnost XX veka)	20世紀のセルビア文学
科目設置学部・研究科	Филолошки факултет
履修期間	通年
単位数	
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式および学生の発表
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Мина Ђурић (Mina Đurić)
授業内容	セルビアの近現代の作家と文学の潮流について
試験・課題など	ドブリツァ・チョースイチ『死の時』についての発表。
感想を自由記入	プリントが当日に配布されるが講義での板書はない。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Српска књижевност од модерна до постмодернизма (Srpska književnost od moderna do postmodernizma)	近代からポストモダニズムにかけてのセルビア文学
科目設置学部・研究科	Филолошки факултет
履修期間	通年
単位数	
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式および学生の発表
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Мина Ђурић (Mina Đurić)
授業内容	セルビアの近現代の作家と世界的な文学の潮流の中におけるセルビア近現代文学の位置
試験・課題など	ドブリツァ・チョースイチ『死の時』についての発表
感想を自由記入	上記の「20世紀のセルビア文学」と類似した内容であった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Јужнословенска компарастика (Južno-slovenska komparastika)	南スラヴ比較文学論
科目設置学部・研究科	Филолошки факултет
履修期間	通年
単位数	
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Тихомир Брајовић (Tihomir Brajović)
授業内容	クロアチアの作家ミロスラヴ・クルレジャとボスニア出身の作家イーヴォ・アンドリッチの比較
試験・課題など	
感想を自由記入	この授業も板書がないため、聞いた内容をノートに書いていく必要がある。イーヴォ・アンドリッチの著作物は日本語訳されているものも多く、事前に読んでおくと授業に役立つと思われる。

留学に関するタイムチャート
---------------

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等  
(形式は箇条書きなど簡単なもので構いません)

2012年 1月～3月	
4月～7月	大学院入学
8月～9月	
10月～12月	出願、選考
2013年 1月～3月	
4月～7月	留学準備
8月～9月	留学開始
10月～12月	ヴィザ取得
2014年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

## 留学体験記

留学しようと決めた理由	留学中に研究対象を変更しましたが、留学するまでは大学院でセルビアの作家ドリツァ・チョーシチによる第一次世界大戦中のセルビアを描いた歴史小説『死の時(B p e m e c m p r t i)』に関して研究しており、研究を進めるためにはセルビア語力のさらなる向上が必須であると思ったからです。また、この留学を通して、セルビアだけに限らず旧ユーゴスラヴィア地域の文学や言語、音楽などといった文化に対する見識を深めたいと思ったからです。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	語学力を向上させることが最も重要なことだと思います。セルビア語ではキリル文字とラテン文字を併用していますが、セルビア語のみならずクロアチア語等でもほぼ同様のラテン文字正書法を使っており、キリル文字はほとんど用いられないこともあって、あまりキリル文字に慣れていませんでしたが、セルビアへ留学するときにはどちらの文字にも慣れておく必要があります。授業では板書がほとんどないので、セルビア語を聴いて、キリル文字とラテン文字のどちらでもいいので、瞬時に書き取れるようにしておく練習をしておく、留学中非常に役に立つと思います。また、日本のことについて質問されることが多いので、それに対応できるようにしておくのがいいと思います。
この留学先を選んだ理由	留学中まではセルビアの作家ドリツァ・チョーシチの『死の時』に関する研究をしていたので、セルビア共和国にある大学へ留学を希望していましたが、ベオグラード大学はセルビア共和国にある唯一の協定校であり、旧ユーゴスラヴィア地域にある唯一の協定校でもあるので、この留学先を選びました。
大学・学生の雰囲気	大学の建物は中心部のストゥデンツキ・トゥルグ(Студентски трг/Studentski trg)にあり、Филолошки факултет/Filološki fakultet(文学部)は大学の建物の隣にあります。学部の校舎は古くからある建物で、カフェや学部の図書館なども校舎内にあります。多くの学生が在籍しており、学部にはセルビア文学科や日本語学科など多くの学科があります。
寮の雰囲気	洗濯は予約制で1回150ディナール(約160円)でした。寮には食堂があり、学生証に事前に入金しておく必要があります。注意しておきたいことは、食器と交換するコインを最初に購入しておかなければならないことです。寮には売店があり、洗剤やトイレトーパー、菓子、飲料などを安く買うことができます。寮では夜になると友人と寮の入口付近で交流でき、友達を作りセルビア語能力を向上するのに最適な環境だと思いました。
交友関係	留学当初はセルビア語があまりうまくなかったのですが、寮の友人と交流したり、日本語学科が行っている日本語カフェに参加したり、セルビア語の授業を受講している他の留学生に話しかけたりすることで、多くの友達が自然にできていきました。
困ったこと、大変だったこと	ベオグラードへ着いた当初は、あまりベオグラードで使われるセルビア語に慣れていなかったもので、例えば「スプーン」をクロアチア語標準形のžlicaという形しか知らず、セルビアで使われているkašikaという語を知らなかったために通じなかったようなことがありましたが、困ったことや大変だったことはほとんどありませんでした。英語で話してくる人もいますが、英語を話せない人も多いので、もしほとんどセルビア語を知らなかったら、困ったことや大変だったことが多かったと思います。
学習内容・勉強について	文学を専攻していましたが、セルビア語学あるいは南スラヴ言語学に関する授業も受講していました。また、平日は外国人のためのセルビア語の授業もあり、ほぼ毎回受講していました。大学外では日本では入手が困難なセルビア語やクロアチア語等で書かれた書籍の購入を、ベオグラードのみならず、ノヴィ・サードやザグレブ等への旅行中も行ってました。6月にはセルビア語の試験があり、それに向けた勉強も5月頃は行ってました。
課題・試験について	授業でドリツァ・チョーシチの『死の時』に関する課題が出されましたが、日本語への翻訳のない文学作品の内容をまとめ、あるテーマに沿ってセルビア語で発表するという作業は非常に大変でしたが、あるテーマに絞ることが可能であり、興味のあることでしたので完成させ発表することができました。
大学外の活動について	ベオグラードだけではなく、機会があればセルビアやクロアチアの各地を旅行し、その土地の文化に触れたり、書籍などを購入したり、日本で会ったことのある人などと交流したりしました。
留学を志す人へ	留学を志すのであれば語学の勉強のようなことでもいいので、少しずつ留学のための準備を行っていくことが重要です。目標や努力をもって臨むことも重要ですが、あせりすぎず着実に留学のための準備をあきらめずに行っていくことが最も重要です。留学中は大学の授業だけではなく、その土地の文化に触れる機会として、積極的にさまざまなことに参加してみることも非常に重要です。

## 一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	自習	自習	近現代文学の授業	自習	自習	バスで他の町へ	市内観光
		買い物	昼食				昼食
午後	語学の授業	語学の授業	語学の授業	語学の授業	語学の授業	昼食	バスで帰宅
	昼食	方言学の授業	昼食	昼食	友人と昼食	市内観光	
夕刻	本屋で本探し	比較文学の授業	カフェで自習	寮で友人と交流	買い物		夕食
夜	夕食後帰宅	夕食		自室で夕食	自室で夕食	レストランで夕食	自習